



2020 年 2 月 25 日

各 位

会 社 名 H P C シ ス テ ム ズ 株 式 会 社

代 表 者 名 代 表 取 締 役 小 野 鉄 平

(コード番号：6597 東証マザーズ)

問 合 せ 先 取 締 役 管 理 部 長 下 川 健 司

(TEL. 03-5446-5530)

＜マザーズ＞投資に関する説明会開催状況について

以下のとおり、投資に関する説明会を開催致しましたので、お知らせいたします。

記

○開催状況

開催日時	2020 年 2 月 22 日 (土)	14 時 00 分から 14 時 45 分
開催方法	対面による実開催	
開催場所	三井住友銀行東館 ライジング・スクエア 3 階 SMBC ホール (東京都千代田区丸の内 1-3-2)	
説明会資料名	個人投資家様向け HPC システムズ株式会社 会社説明会	

【添付資料】

投資家説明会において使用した資料

以上

個人投資家様向け HPCシステムズ株式会社 会社説明会

2020年 2月22日

HPCシステムズ株式会社

証券コード：6597（東証マザーズ）



目次

1. 経営理念・ミッション・会社概要・経営戦略
2. 競争優位性
3. 成長戦略
4. 2020年6月期 第2四半期決算説明
5. 2020年6月期 通期業績予想

目次

1. 経営理念・ミッション・会社概要・経営戦略

2. 競争優位性

3. 成長戦略

4. 2020年6月期 第2四半期決算説明

5. 2020年6月期 通期業績予想

経営理念・ミッション

人とコンピューティングの力で世界平和に貢献する

人類と地球環境の課題は、環境、資源、エネルギー、食糧、健康です。

これらの課題を解決するためには、科学技術の進歩が必要不可欠です。

科学技術の進歩には、人の意思、創造力とデータ、コンピューティングが欠かせません。

人類と地球環境の課題を解決していくことが人々の生活をより良くし、結果、世界平和へとつながります。



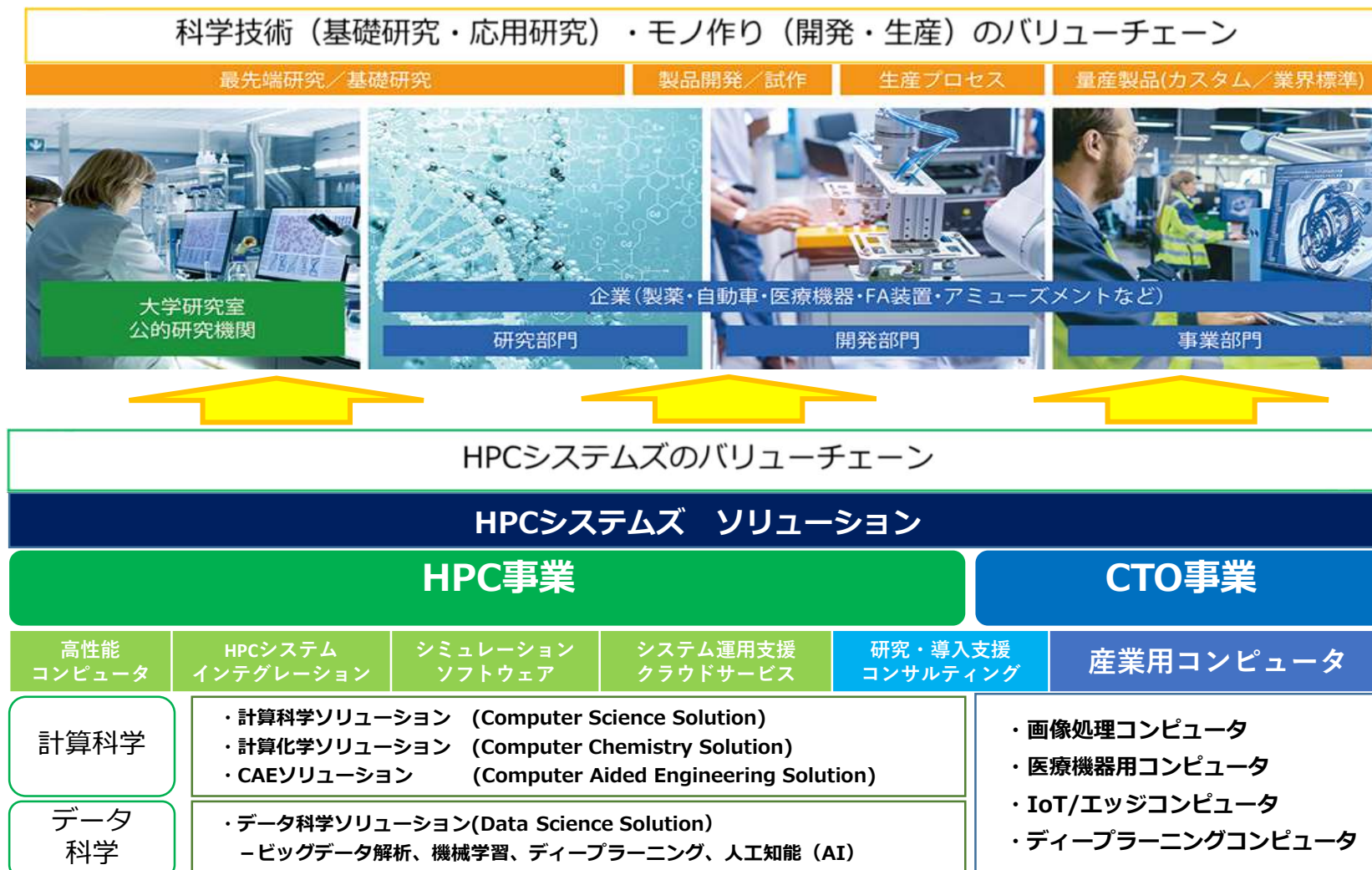
**研究者には研究する力、
開発者には製品を開発する力を提供すること**

会社概要

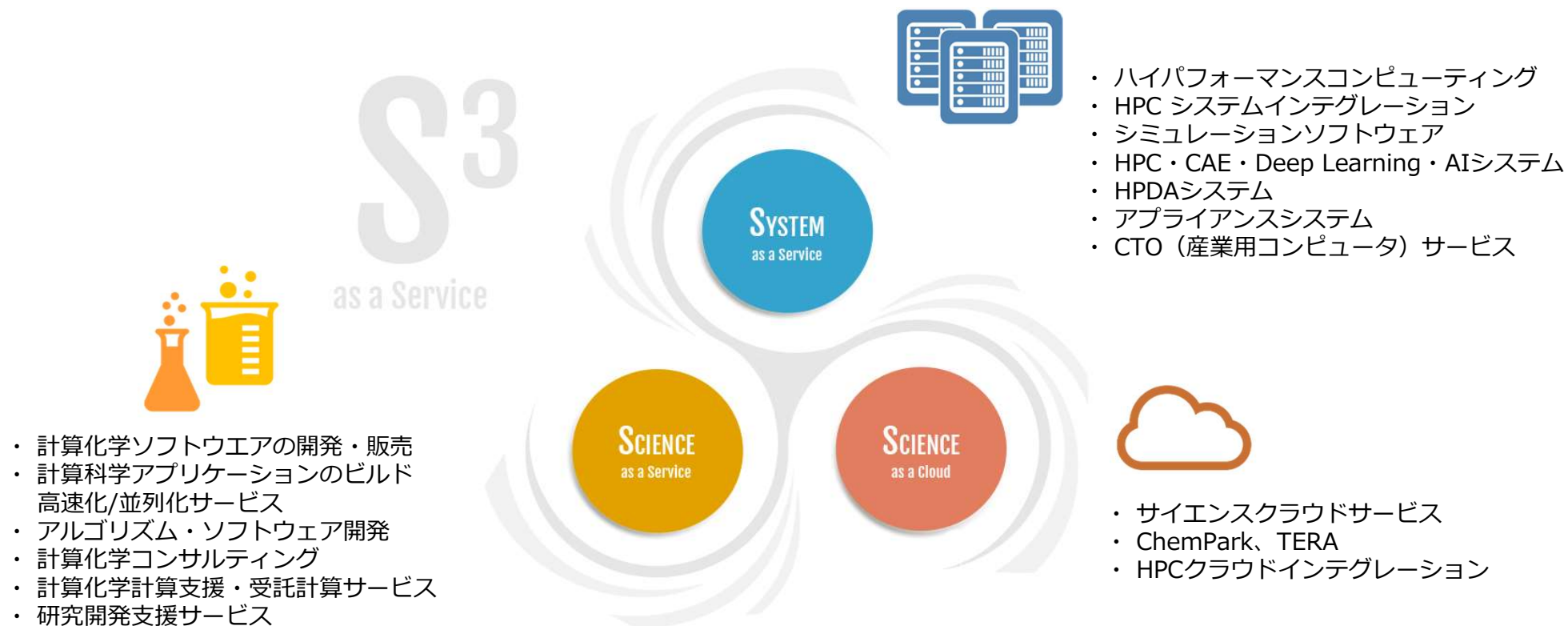
会社名	HPCシステムズ株式会社
設立	2006年7月
資本金	1億9,877万円
上場区分	東証マザーズ（証券コード：6597）
代表取締役	小野 鉄平
本社	東京都港区海岸 3 - 9 - 15 Loop-X 8階
西日本営業所	京都府京都市下京区烏丸通綾小路下る二帖半敷町646
開発センター	東京都中央区日本橋本町（ライフサイエンスビル2）
工場	千葉県匝瑳市野手174-1
支店（台湾）	新北市新店區寶中路92號4F-4, 台湾
従業員数	86名（2019年12月31日現在）
事業セグメント	HPC事業 CTO事業

事業概要

■ 科学技術の基礎・応用研究、企業の先端研究・製品開発、量産までを一気通貫でサポート



経営戦略 S³ Solution as a Service



**3つの強力なソリューション・ツールが
掛け合わされて3乗の効果を発揮します**

目次

1. 経営理念・ミッション・会社概要・経営戦略

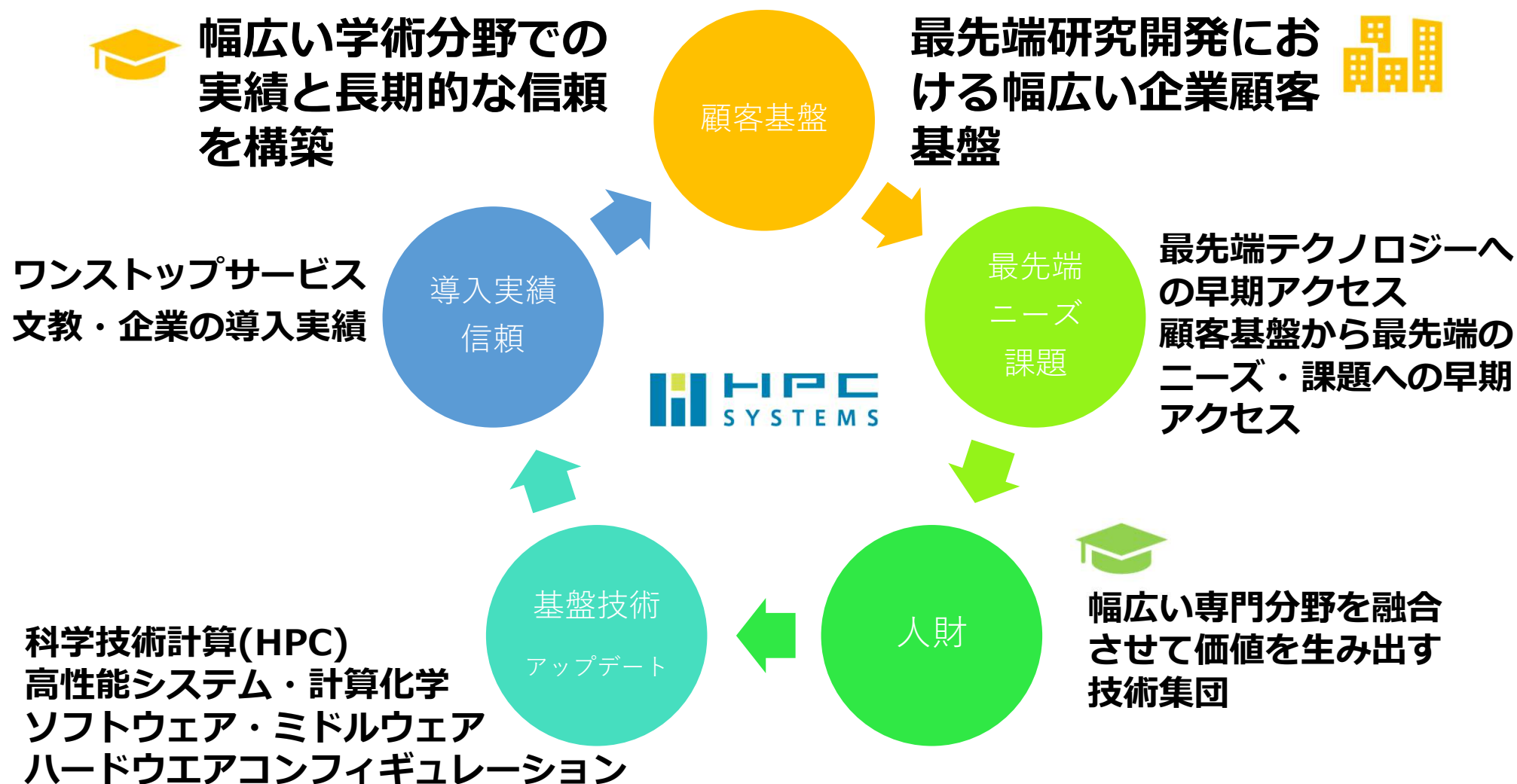
2. 競争優位性

3. 成長戦略

4. 2020年6月期 第2四半期決算説明

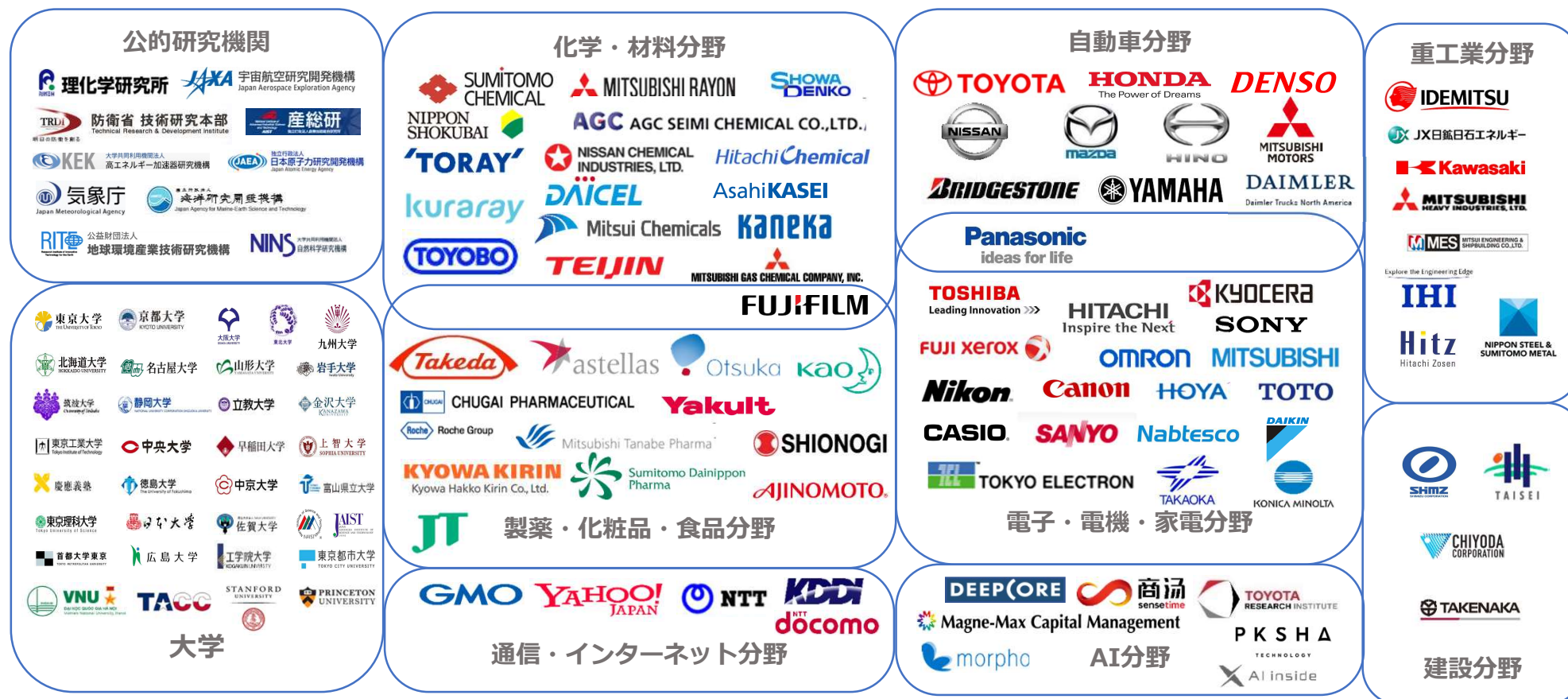
5. 2020年6月期 通期業績予想

競争優位性：ビジネスの好循環サイクル

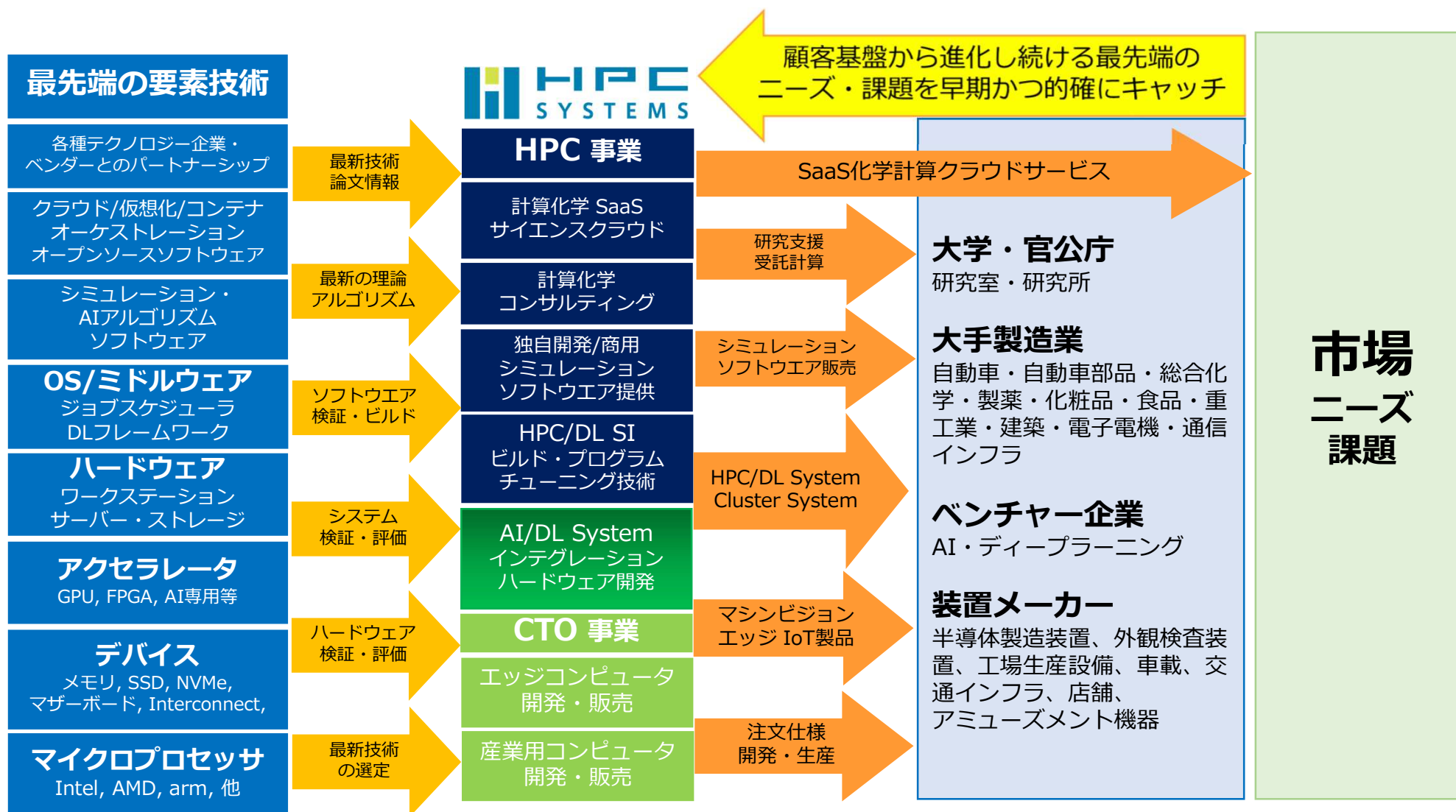


競争優位性：強固な顧客基盤

■ 学術から企業の最先端研究開発に及ぶ幅広い分野の顧客基盤



競争優位性：最先端ニーズ・課題へ早期アクセス

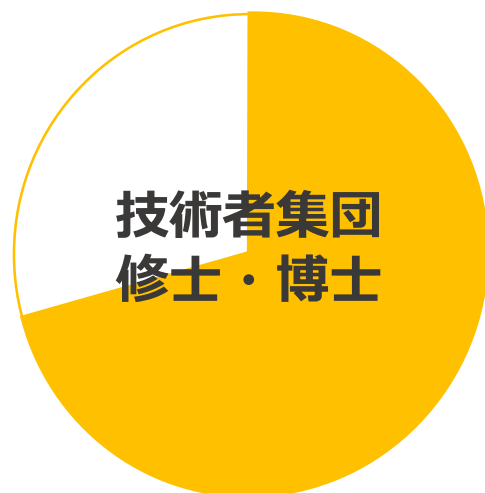


競争優位性：当社の貴重な人財

■ 最先端研究・技術開発を支える幅広い専門分野の技術者集団

- 当社は科学技術計算(High Performance Computing)の技術に加えて、幅広い専門分野を融合させて価値を生み出すことに長けている技術集団に強みを持っています。
- 従業員数86名のうち経験豊富なHPC SEを含むエンジニア計37名、うち25名が研究開発検証技術

✓ (今後も積極的に採用)



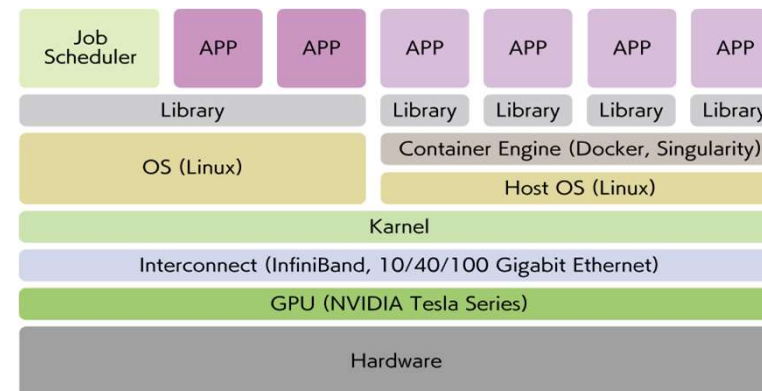
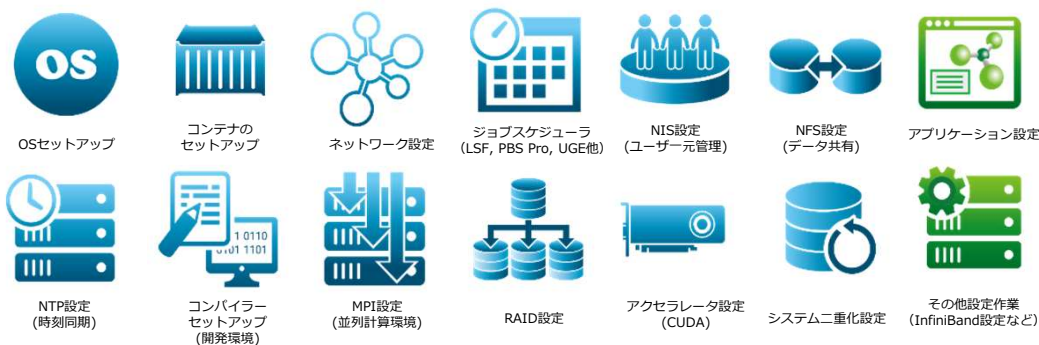
幅広い専門分野の技術者集団

博士	工学研究科	(専門分野：理論化学)
博士	理学研究科	(専門分野：化学)
博士	理学研究科	(専門分野：有機合成)
博士	人間情報学研究科	(専門分野：物理・分子分布)
博士	システム工学研究科	(専門分野：有機合成・物理化学)
博士	環境情報学府	(専門分野：流体シミュレーション)
博士	情報科学	(専門分野：データマイニング)
博士	情報システム学研究科	(専門分野：並列化プログラム)
博士	医学研究科	
修士	情報理工学研究科	(専門分野：計算科学)
修士	理学研究科	(専門分野：化学・機械学習)
修士	理学研究科	(専門分野：物理、深層学習)
修士	材料及び資源工学研究科	(専門分野：材料工学)
修士	物質創成科学科	(専門分野：物質創成)
修士	工学研究科	(専門分野：情報科学・深層学習)

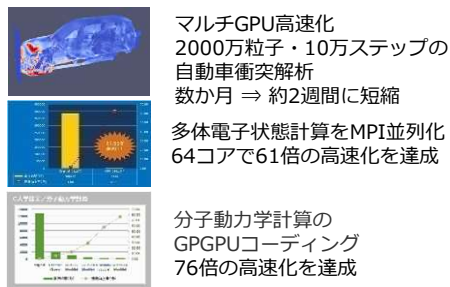
競争優位性：HPC事業のコア技術

- 科学・工学向け科学技術計算(HPC)システムをはじめ、データ解析向け高速分散ファイルシステムや機械学習・ディープラーニング向け高度なシステムインテグレーション技術、独自開発のシミュレーションソフトウェアを含むナノからマクロスケールのシミュレーションソフトウェア、インハウス・オープンソースソフトウェアのビルド・並列化・高速化技術、クラウド環境構築技術

HPCシステムインテグレーション



プログラム並列化・高速化サービス



フレームワーク



ライブラリ



Deep Learning SDK



OSと開発環境



競争優位性：HPC事業のコア技術（IT x 化学）

- ライフサイエンス（生命科学）とマテリアルサイエンス（材料科学）分野を重点事業領域と位置づけ、化学と計算化学に関する知見を持つ強みを生かし、顧客の要望に合う最適な製品や計算化学の導入支援・計算支援・研究支援などのサービスを提供
- 計算化学シミュレーションソフトウェアの独自開発と提供をはじめ、コンピュータ上で高精度に計算した材料データベース、AIや機械学習のアルゴリズムなどを活用して、材料開発を行うマテリアルズ・インフォマティクス（MI）のアルゴリズム開発に注力

量子化学計算・分子動力学計算に強み



競争優位性：HPC事業 - 計算化学ワンストップサービス



高性能計算機のSI 販売

- ラックマウントサーバ
- ワークステーション
- GPU
- ストレージシステム
- 高速分散ファイルシステム
- ネットワークスイッチ
- システムインテグレーション
- アプリケーション最適化
- ジョブ管理/モニタリング



化学計算ソフトウェアの開発・販売・高速化



Reaction plus

化学反応を高速計算



NeoGRRM

反応経路を網羅探索



QMMMplus

溶媒効果を評価

Gaussian
GAMESS
NWChem
GROMACS
AMBER
LAMMPS

Reaction plus
Visomin
QMMM plus
GaussRun
自社開発製品



自社開発ソフトウェア採用例

ReactionPlus Pro、Pro2、Express
自社ソフトウェアライセンス販売
論文記述実績

計算化学セミナー

クローズドセミナー形式で実施

- S101 計算で何が出来るか？
- ...
- S103 計算手法と基底関数の選び方



サポート

- 技術支援
- 計算エラー対処
- トラブルシューティング



クラウドサービス



ソフトウェア受託開発・研究支援

- 計算化学コンサルティング
- 新手法・アルゴリズムの発掘・信頼性調査
- 共同支援・ソフトウェア受託開発
- 研究目的に合った手法・ソフトウェアの調査

受託計算

- 分子構造最適化
- HOMO/LUMO解析
- ラマンスペクトル
- NMRスペクトル
- 反応経路解析
- 励起状態計算 など



競争優位性：CTO事業のコア技術

- コンピュータハードウェアの開発・生産技術・品質のノウハウにより高性能かつ安定性のある産業用コンピュータシステム、エッジコンピュータ製品の提供を実現

CTOサービスの特徴

顧客の開発・生産工程の課題をヒアリングしながら、価格・性能・品質・高低温・防塵・防水・静電対策・過酷な環境に対する高耐久性などの要望に応える顧客の製品にフィットする産業用コンピュータ、エッジコンピュータの仕様提案、開発、生産、保守サポート、長期安定供給を支援しています。



ユーザの産業機器、IoT、ロボット、エッジコンピュータ

- ✓ コンピュータハードウェアソリューションの提案、提供
- ✓ 長期運用支援、次世代後継機器への切替支援

お客様のプロジェクトを長期運用支援

要件定義・仕様



量産試作・量産



技術支援・保守



競争優位性：HPC事業 x CTO事業の強み

- 計算処理を高速に実現するためのハイパフォーマンスコンピューティングのハードウェア、ソフトウェア、システムインテグレーション、コンサルティングによるワンストップサービスから工場生産設備・製造装置・検査装置、制御機器や交通インフラなどエッジで処理する産業用コンピュータやエッジコンピュータの開発生産までを一気通貫で提供



目次

1. 経営理念・ミッション・会社概要・経営戦略

2. 競争優位性

3. 成長戦略

4. 2020年6月期 第2四半期決算説明

5. 2020年6月期 通期業績予想

当社の成長戦略イメージ

- 科学技術研究開発のプラットフォームを目指して、多種多様なテクノロジーの要素技術を顧客の成果に結びつく製品やサービスとしていち早く実用化し提供する。
- ソフトウェア開発とクラウドサービスの構築を進め、収益の柱に育成することを目指します。



成長戦略：化学+ソフトウェア

■ ブルーオーシャンの開拓による更なる成長

- 化学シミュレーションに関するソリューション提供で世界をリードすることを目指します。

当社の重点領域

材料科学-マテリアルサイエンス分野
生命科学-ライフサイエンス分野

化学（原子・分子）の世界

物質の性質ならびに物質相互間の
反応を研究する分野

当社のソリューション

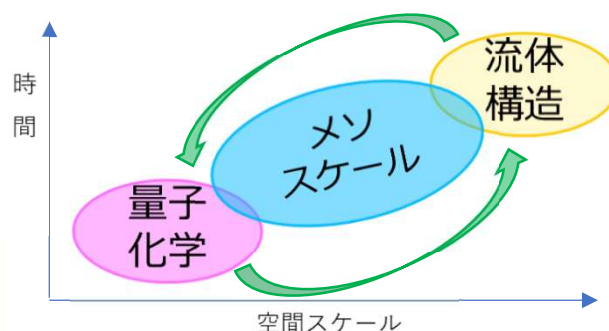
- * 計算化学コンサルティング
主に、量子化学計算・分子動力学計算
- * 計算化学ソフトウェアの開発/提供
マテリアルズインフォマティクス・
アプリケーションの研究開発/提供
- * サイエンスクラウドサービス



計算の世界

数値シミュレーション

分子構造から機能を導くボトムアップアプローチ



データから分子構造を予測するトップダウンアプローチ

機械学習・ビッグデータ解析・AI
マテリアルズインフォマティクス

現実世界

科学技術研究開発手段
の割合は90%以上が実験

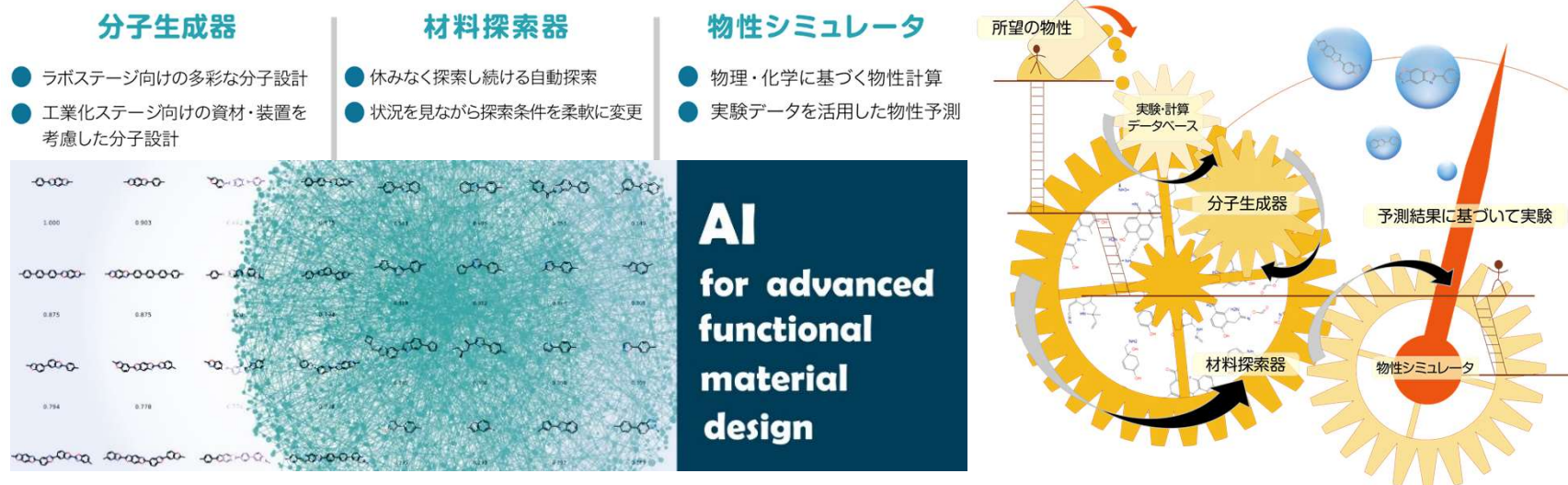
実験の世界は
理論や仮説から
人間の勘と経験、観察、
試行錯誤、検証

ブルー・オーシャン

成長戦略：MIアルゴリズム開発

■ AIによる高機能材料設計支援技術

- 現在、当社で新たに開発中のマテリアルズインフォマティクス（MI）アルゴリズムは、実験・計算データと研究者の勘、経験、物理化学の知見も活用しながら最適な材料をAIで探索できることを目指し、研究開発を推進しています。



■ 現状と今後の計画



成長戦略：サイエンスクラウドサービス（SCS）

- クラウドサービスの需要拡大を当社の成長機会と捉え、計算化学ソフトウェアをクラウド環境で手軽に活用できるSoftware as a Service（SaaS）のサイエンスクラウドのユーザビリティを高めるため計算環境の継続的な増強と拡張性を機能追加し、新規ユーザーの獲得に注力

量子化学計算ソフトウェアのGaussian、分子動力学シミュレーションのGROMACSやLAMMPS等のオープンソースソフトウェアや独自開発の化学反応計算ソフトウェアのReaction plusシリーズやキーラーアプリケーションなど各種計算化学ソフトウェアを最適化し、実装したクラウドで提供するSaaS（Software as a Service）サイエンスクラウドサービス

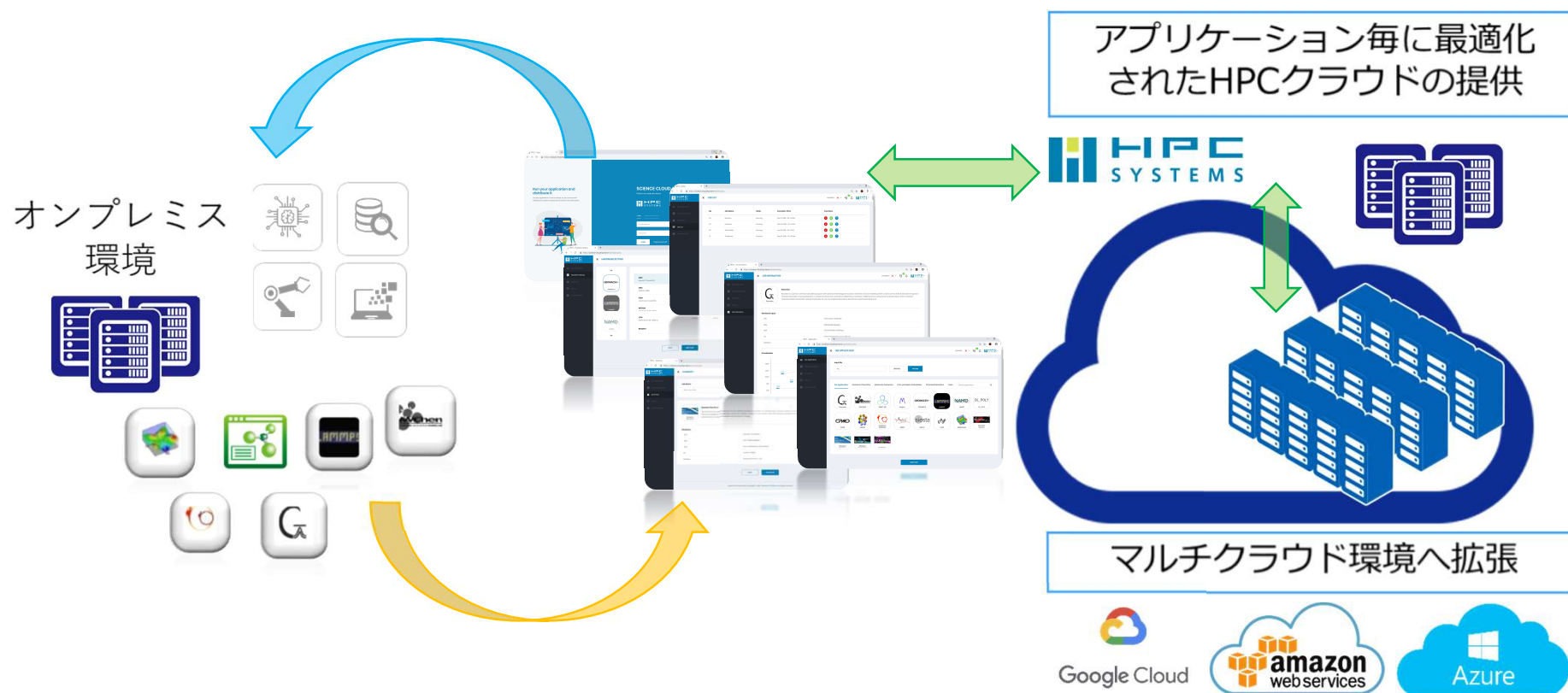
各種計算化学ソフトウェアに最適化した自社のクラウド環境にソフトウェア実装し、創薬研究や材料研究開発者向けに提供



SaaS（Software as a Service）とは
ソフトウェア（主にアプリケーションソフトウェア）を必要な機能を必要な分だけサービスとして利用できるようにした提供形態のこと。

成長戦略：サイエンスクラウドサービス

- サイエンスクラウドからパブリッククラウドへの機能拡張を実現する。
- 当社の計算化学ソリューションと組み合わせ、国内と海外向けに積極的に展開します。
- 過去に購入頂いたHPCシステム（オンプレ）環境をコンテナ化してSCSへ拡張可能にする。



目次

1. 経営理念・会社概要・経営戦略
2. 競争優位性
3. 成長戦略
- 4. 2020年6月期 第2四半期決算説明**
5. 2020年6月期 通期業績予想

2020年6月期 第2四半期累計決算発表サマリー

■ 全体

- 第2四半期累計の売上高は、前年同期比15.3%の減収となったが、採算の良い案件の獲得により、人件費及び上場関連費用等を吸収し、営業利益は過去最高の250百万円、前年同期比48.5%の増益（参考値）
- 2020年6月期業績予想に対する経常利益の進捗率は52.0%

売上高	2,359百万円（参考値：前年同期比 △15.3%）
営業利益	250百万円（参考値：前年同期比 +48.5%）
経常利益	238百万円（参考値：前年同期比 +44.4%）
四半期純利益	161百万円（参考値：前年同期比 +46.9%）

※ 前年同期は四半期財務諸表を作成しておりませんので、前年同期比は参考値となります。

■ セグメント

■ HPC事業

- ✓ 前年同期の大口販売の吸収にはいたらずも、第1四半期に続き、第2四半期も大手製造業向けハイパフォーマンスコピューティング(HPC)・AI・ディープラーニング分野におけるSystem as a Serviceが順調に推移

■ CTO事業

- ✓ 医療機器、アミューズメント機器、デジタルサイネージ向け産業用コンピュータ等の継続顧客向け販売は順調に推移するも、前年同期の大口販売の吸収にはいたらず

■ 新型コロナウイルス「COVID-19」感染症の影響について

- ✓ 現時点においては部材調達と生産等の問題は発生しておりませんが、今後も各方面からの情報収集を行いながら、開示すべき事実が発生した場合には、速やかに公表いたします。

決算概要：損益計算書

単位：百万円

	2019年6月期 第2四半期 累計（参考値）	売上対比	2020年6月期 第2四半期 累計	売上対比	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率	通期 業績予想	売上対比
売 上 高	2,784	100.0%	2,359	100.0%	△425	△15.3%	5,785	100.0%
営 業 利 益	168	6.1%	250	10.6%	+81	+48.5%	469	8.1%
経 常 利 益	165	5.9%	238	10.1%	+73	+44.4%	457	7.9%
四半期累計 純 利 益	109	3.9%	161	6.8%	+52	+46.9%	309	5.4%

※ 2019年6月期第2四半期は、四半期財務諸表を作成しておりませんので参考値となります。

業績：HPC事業サマリー

- 第2四半期（2019年10月～12月）の売上高は前年同期比3.5%増、セグメント利益は124.2%増。
- 第2四半期累計は前年第1四半期の大型スポット案件分を補えず、売上高は前年同期比15.0%減収するも、事業戦略分野のCCS（計算化学ソリューション）において、継続顧客と新規顧客の製薬メーカー・化学メーカー向け研究開発支援と高度なシステムインテグレーション（SI）を含めたHPCシステム販売に加え、ADAS・自動運転ソフトウェア開発用途のDSS（データサイエンスソリューション）のAI/ディープラーニングシステム販売、大手製造業向けCAE分野のSIを含めたHPCシステム販売が寄与し、粗利益が伸長。販管費増を吸収し、セグメント利益は前年同期比158.5%の増益。

	HPC事業				
百万円	2019年6月期 第2四半期 実績（参考値）	売上 対比	2020年6月期 第2四半期 実績	売上 対比	前年同期比 増減率
売上高	716	100.0%	742	100.0%	+3.5%
セグメント利益	21	3.1%	49	6.6%	+124.2%

	HPC事業				
百万円	2019年6月期 第2四半期累計 実績（参考値）	売上 対比	2020年6月期 第2四半期累計 実績	売上 対比	前年同期比 増減率
売上高	1,904	100.0%	1,619	100.0%	△15.0%
セグメント利益	68	3.6%	176	10.9%	+158.5%

※ 2019年6月期第2四半期は四半期財務諸表を作成しておりませんので参考値となります。

業績：CTO事業サマリー

- 第2四半期（2019年10月～12月）の売上高は前年同期比11.4%減、セグメント利益は12.8%減。
- 第2四半期累計は前年同期に獲得したディープラーニング分野におけるデータサイエンティスト向けワークステーションの大口販売による減少を補えず減収。半導体検査装置、アミューズメント機器向けなどの継続顧客に対する採算の良い売上の確保、及び新規顧客からの新規受注獲得するも、人員増強等による販管費の増加を吸収できずセグメント利益は前年同期比△26.0%の減益。
- 米中貿易摩擦の影響による一部の製造装置メーカー向け産業用コンピュータ需要の足踏みも影響。

	CTO事業				
百万円	2019年6月期 第2四半期 実績（参考値）	売上対比	2020年6月期 第2四半期 実績	売上 対比	前年同期比 増減率
売上高	429	100.0%	380	100.0%	△11.4%
セグメント利益	51	12.0%	44	11.8%	△12.8%

	CTO事業				
百万円	2019年6月期 第2四半期累計 実績（参考値）	売上 対比	2020年6月期 第2四半期累計 実績	売上 対比	前年同期比 増減率
売上高	880	100.0%	740	100.0%	△15.9%
セグメント利益	100	11.4%	74	10.1%	△26.0%

※ 2019年6月期第2四半期は四半期財務諸表を作成しておりませんので参考値となります。

目次

1. 経営理念・会社概要・経営戦略
2. 競争優位性
3. 成長戦略
4. 2020年6月期 第2四半期決算説明
5. **2020年6月期 通期業績予想**

2020年6月期 通期業績予想サマリー

■ 全体

- 売上高、営業利益、経常利益、当期純利益、いずれも過去最高を目指す

売上高	5,785百万円	(前期比 +7.2%)
営業利益	469百万円	(前期比 +27.0%)
経常利益	457百万円	(前期比 +24.7%)
当期純利益	309百万円	(前期比 +41.1%)

■ セグメント

■ HPC事業

- ✓ HPCソリューション分野で圧倒的なニッチトップ企業として、HPCシステムインテグレーションの技術力強化、計算化学ソリューションを積極的に発展させることで成長を推進する。
- ✓ SaaSサイエンスクラウドサービスの多様なシミュレーションソフトウェア群の機能拡充に加えてパブリッククラウドへの拡張性を実現し、収益の柱に育成する。
- ✓ 計算化学ソフトウェア開発とマテリアルズ・インフォマティクスアルゴリズム研究開発を引き続き推進し、材料開発向けキラーアプリケーションを作り出す。

■ CTO事業

- ✓ 新製品を積極的に開発し、展示会に出展して新規顧客の開拓を推進
- ✓ IoT・スマートファクトリ向けエッジコンピュータや画像処理・マシンビジョン向け高性能な産業用コンピュータ、エッジコンピュータの新製品を積極的にリリース

本資料のお取り扱い上のご注意

- 本資料において提供される資料ならびに情報は、いわゆる「見通し情報」（forward-looking statements）を含みます。
- これらは、現在における見込み、予測およびリスクを伴う想定に基づくものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。
- それらリスクや不確実性には、一般的な業界ならびに市場の状況、金利、通貨為替変動といった一般的な国内および国際的な経済状況が含まれます。
- 本資料は、いかなる有価証券の取得の申込みの勧誘、売付けの申込み又は買付けの申込みの勧誘（以下「勧誘行為」という。）を構成するものでも、勧誘行為を行うためのものでもなく、いかなる契約、義務の根拠となり得るものでもありません。
- 今後、新しい情報・将来の出来事等があった場合であっても、当社は、本発表に含まれる「見通し情報」の更新・修正を行う義務を負うものではありません

お問い合わせ先

HPCシステムズ株式会社



: <https://ir.hpc.co.jp/inquiry/>



コーポレートサイト : <https://www.hpc.co.jp>



IR情報 : <https://ir.hpc.co.jp/>

